

大場 正昭 議員

県道の新設を要望する

Q 問 浜北大橋から県道山梨敷地停車場線、県道浜北袋井線へ通ずる道路の新設はどうか。

A 答 この道路は、旧袋井市の都市計画マスタープラン策定の際に、地域から要望があり位置づけをした道路である。磐田市で県道磐田横川線の道路計画を考慮し、浜北大橋や旧豊岡村に通じる道路を検討していると聞いている。磐田市の動向を踏まえ、道路計画を検討していきたい。

三川・西山地区の土地利用は

Q 問 今日までの経過と都市計画マスタープランでの位置づけ、今後の見通しはどうか。

A 答 地域資源活用ゾーンとして位置づけをし、地域資源や地域特性を生かした上で地域活性化を図る区域としていくことになっている。今後は、農業との調整や、環境に対する配慮なども必要となるので、まずは地域が主体となり、土地利用の構想を検討いただくことが肝要であると考えている。



上空から見た三川地域(写真は大谷・見取地区)

高木 清隆 議員

下水道事業における今後の課題への取り組みは

Q 問 污水处理普及率を高めていくための取り組みをどう考えているのか。

A 答 広報ふくろいでのPRや地元説明会、公共下水道未接続世帯への個別訪問など積極的に取り組んでいる。合併処理浄化槽についても、引き続き地元説明会等でPRし、污水处理の普及に向け積極的に取り組みたい。

Q 問 下水汚泥をバイオマス・エネルギーに転換し、省エネや地球温暖化防止に貢献する事業への取り組みが必要と考えるがどうか。

A 答 汚泥処理については、民間処理施設での肥料化やセメントの資源へのリサイクルを行ってきた。来年度からは新ごみ処理施設で、余熱発電や余熱利用施設の併設による熱エネルギーの回収と発生したスラグを建設資材として利用を図る予定。

Q 問 施設の維持管理をも含めた、中長期の事業計画策定への取り組みが必要と考えるがどうか。

A 答 今年度、公共下水道全体計画を見直した。今後の事業実施は、市財政見通しに合わせて事業費の配分をし、計画的に取り組みたい。



下水道管の布設工事